紫文蟠屈之物

きりかた

秘閣文庫

いせものの内にうより
よりとれるくんぼそけせまで
いせものの帝の内侍代にうあるとうん女院の夜あ
ゆうとれりゆゆうの中にさのこか里の品しうき
内侍の際にいたくせぬうちにくれて帝の内侍に
入りと時めきたまふ夜にりゆうの式
夕夜いまぐはいりまいぐりうまへうより内侍入内
あるとておれとそくんこうぐりせうせる麿あり
女院のゆうぐく品夜はぐひろく時めきたまふ
あまりとしいへいりの日もとうはじきりのにぞ
しうつくそのいれやりとれ品こうかうねとおれて
いのの際にくいうふれ日ゑんせよけもばとそもちや
らくうやをぐにたくゆえとれませるつのそのれに
やりくへ品ふくうねたるはほどあるれりくぐれをと
品ひきて夜くうはゆてやとくうぬ事に

内侍代にう
やんごとなききさい
品ふくうくれを陽と
くぐわうり
まへくうより
まれうくなりいわり
まれをとんくう
ぐり
ぐはしきりのに
こうの日もをくまで
きりのにし
なぐぐ
内侍やりとの品てる
なぐはぐあうく
をれうりげくうの
をれうり品きく
こうげへにつをも
品ふくうくにつをと
人のうとうぐう

秘閣文庫

人の乳のみてやうやう
たりにや
たりしくて
あげしく
が乳にてにぎらん
しくと
さとぐら
が宮へさぐりぐら
あげん
幸こうねほどに
あるにかりのに
はや後かりのに
えぐぐせすりん
はをもかれぎと
世のうりにと
未代までの川何
にもと
はりてかー
きされこと
んぐらの
ぐたこ
うん
女上人と

行りひねこみまふ公家約多れかはとゆんうた
つけくも人の乳乃こりやこるすぬこにく恨
こそねこと行せまふぐはすとくてにやこうん
いとが乳行りにまぐりく労症のやうにこと
ゆうせすひはく坊んぼこげにく市養生のうあ
とて宮へさぐりぐらにせこの人ぐ帝いいとく市
んぐ人も幸こうねほどに市不仮ろりのにぐ
しぬー人のそこりあざろりもうこれを市
なこれど行ふはあて未代までの川例にも
ぬめぐきこうれこれば公ぐ女上人ぐこと奥と
さはーまひぐあいこてなくこりはにけてこげ
もこはくむそくくいひあれいこ家の出方にと
はてんそこもぐーきほどろ帝乃行ーめ也
ろり庵出にてもやこれ事のとりにこと世の
中もみぐれてありこれとぐここなくこ天ぐー

あいこく
あいここなくこ
めとこぐ先つ
こりめにけてこげ
ここつこ
まぐゆさ
ここぐーきこ
れいりし
帝の行ーりこ
りこーにと
庵出にこと
うこ
うこのこ
やこく
ぐこここなくこ
あぐこなー
行ともものつけこ
れぬすやこ
りてこなこぐこに
りてあこーぐこに
ひこのぐ川ぐー
川こにいひいぐ川
ぐこ

とーこぐく行ともれけはられぬ事やこりこ和
ここのこにこ人乃りてあこーぐこにここぬこ揚
黄妃のひーれここここみいひ出川ぐく
こりゆく行にこ家の出方のこ人行こにつけこんぐる
しくきぐ行しき事ことけこれど帝の出ん
ぐ人乃こぐけるこぐこはこのこにて
こき年月こもはこひつこぐーこ文大仙云い
やくにこせこひ毎のこれこ右出こぐきの物あれ
こる人にく行乃出こぐの出行やこはこひてこ
行ここひ南世上のひぐきこるぐーきこにこ
とこぐ行これぎーにこも公毎のここれこ
こ行ここひ月こぐあくこせこひこれこ弟にひこ
こけてこここみこうこんのここるこれば
行ぐ乃ここここ大ぐここここれある時いこのここ
れ和歌ここせこせこんここくここんぼこけ

くしたるきこの
ふぐーくきぐーき
すぐとこ
ろくろりて　ろくにせるひこ
うーあるにそ　ゆるれろし
うーあるりて　あけこ
くるやうあろ　くるぐーきこ
ろりうて　ろにしかけて
ふくーあるけい　けぐいりてこ天ぐろくうあるけりこ
ちりてあく　ふるとりにあるくこきせるうんりうあてこ

ろぐいうきこ　ろぐひもありぐこうこ
いけーこの人の　たれくぐれこ
ろりぐ　りをいてこ
世のけりこ　世ろのひぐきこ
りそう　れたくろのるどあるこせこ
ろうぐーこ　ちーこうれろこ

さきれ世ふもれちぎりやより
女ほいけりーうこぐりまで
心ふ夜い前世の中雷獄やふろとろん世ーこぐひすく
きくうけりきぐ玉乃やうあろ望ふさうじまれさせ
ふ帝いに情脈のあひぐもいけりくーあんりこあぐう
せまひーほどは法ふといそぎよびはいーこさせてに
らんなるにふあめぐーきちぐれにじまれつこせ

さきのよ
系世こ
にちぐりや
に宿縁やこ
世ーふく
世ーふぐひふこ
きうーあろ
きくうにけうーこ

うにのけのこみこ
むのやうろうこまこ
いけーこ
いけりくこ
ぐーうあろ
ぐーきこ
ちこのにけくち
ちぐれかむまれつこ
いちのみこ
一乃えこ
ふせけり
にけうちぐこけく
ーくこ
ふうけのこ
ふふこ
世ーふ
世ふ二流にこ
りてうーづこ
りそこやーこ
にけりひにに
くうぐきにせけ
にけこ
天りこのやんぐこあき

乃えい右大臣秀の中狼狽微敵乃女房の中服にく
はーませいがうーろぐて行くくーうぐひをく
ふふこまうせふみこうせふこぐこ望ふ世と世上一流よも
てこやーまもぐふ今中ふれこうげーきにせ
けにいこうふーこぐくもあーこ一の文とア
ーまろぐこりみ中薬暗にるふれぐーきこ大こい
一とりの中いをけーこにて今中ふれ中事い
に中実ーこ別してに中大切にい帝れけぐーこりけ
世ぐもけりてぐーこうふいに中世を意もあれが世ぐ
に内絶りのにけりーめ中秘義ぐーせこすか
ぐりふーに中世ふ義ぐふ法ふに中徳せ世はい中無
新ふぐ唱ふふけ中れ中ふーぐ中ふこ中法ふ
ふこにかそぐにて不断石にけりいこせふべきに
格式にてもあーぬふみこの中人ぐーかふ入世
乃こうあぐりふけはやーにはーまふふけふ世上

大てい一とおりの所せ
行ふこと
ゆゑ
所の内紙のこと
かぎりなく
うつくし
所のようすこと
そのようより
所まことのようすこと
とゝろべての
内侍どのゝ
うへ
かそのようにてふんと
つゝゐさせこと
きえんに
所ゝきにそこと
行ひこと
世ての行ひこと
やんごとなく
うちあひの花こと
上高めこと

人ゝ行ひくともて格別にくゑぜんと上高めこと
ゆゑなれども帝の
まひ御気にいこと
あるべきこれあそびせ行ひくい自編その外行ひこと
ようゝとあるの所用事の苦ゝにいこと
にまゝめこと
寝ることそゝ
へもさゝこと
行ひ所ゝまひ
いこと
ひやうにてゝ
しと法子生れこと
ての所ゝにこと
ゆゝこと
こと法子ゝ
こと法子ゝ

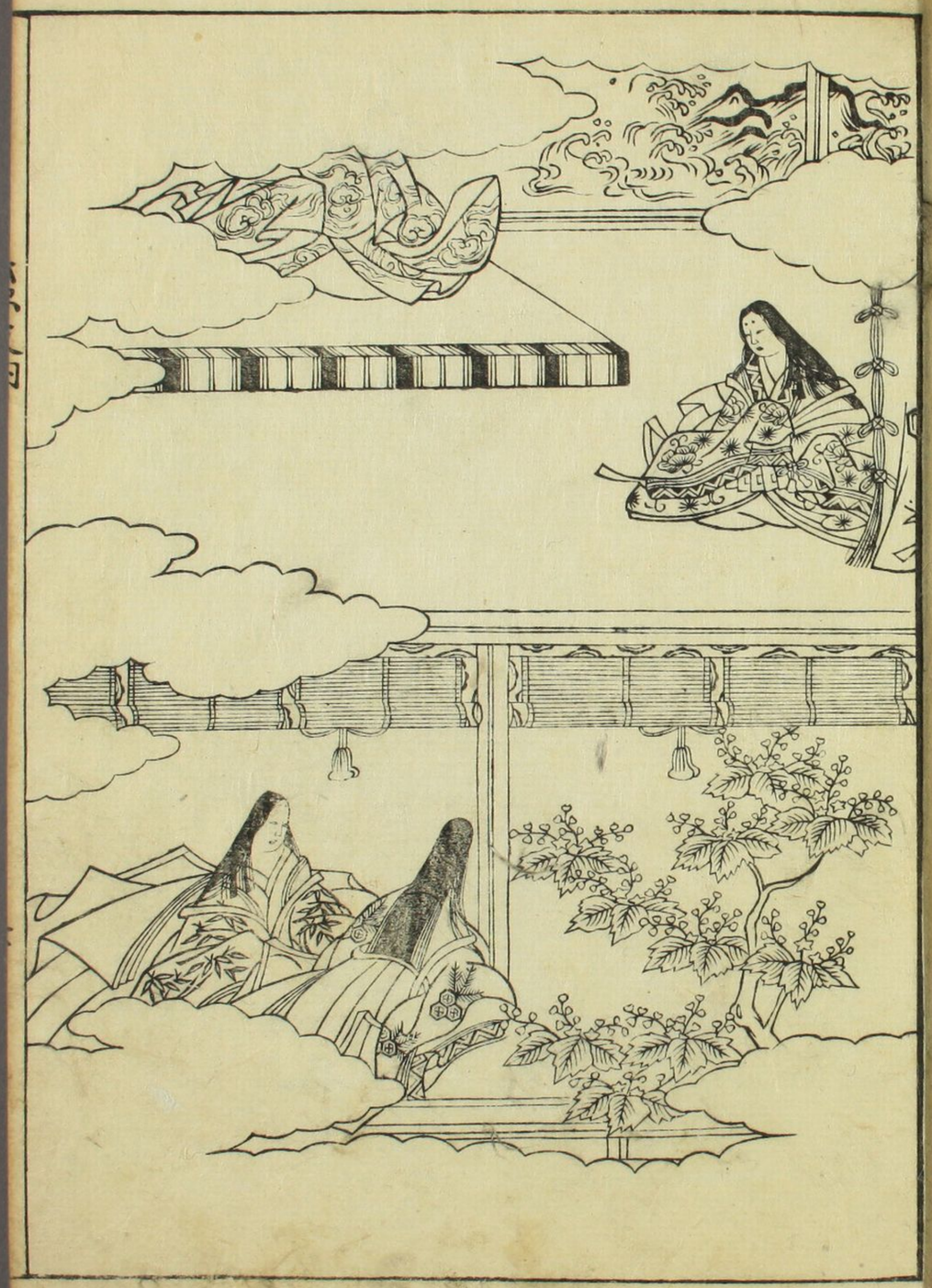
ぞれかりめこと
こと
こと
こ

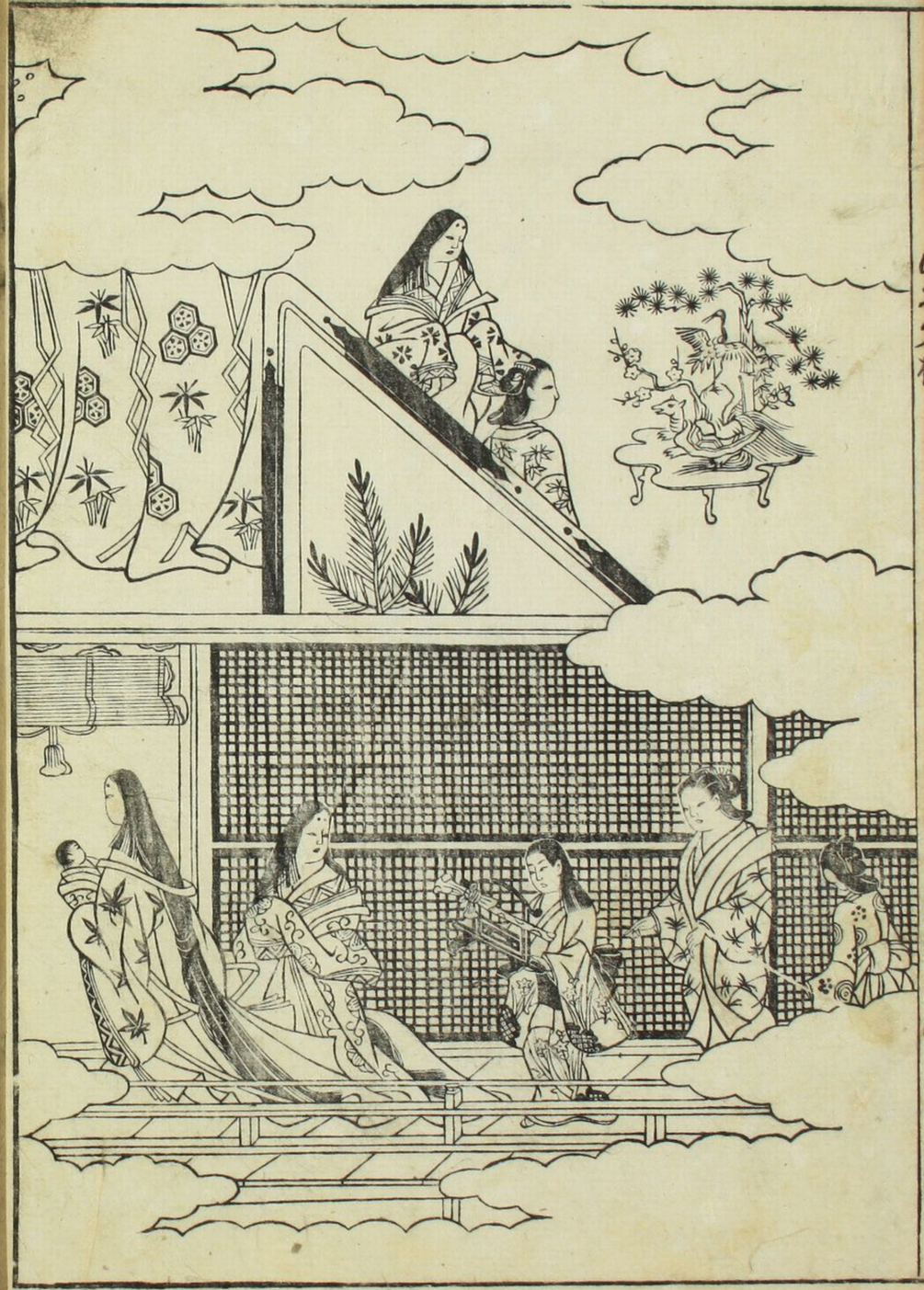
ぢがらうく
かきのどくにそ
んぞうう
はくらくにし
うこさ
くぐげるさ
うのときさし
ありきすにし
きぢとりえん
きぢとんぞうんと
うようく
よいくしく
ありうねにそ
ふぜいさ
中くるろ
くへりて
ちぐさせ
ちくくせし
ひまるき
切くるく
はまへまり
はゆきうひと
うとりと

ぢ者ぶにぞはぢくゆうくれ出是和いぐうぢけるた
はうげとぶそのりきるのにはぢりくれるもぐれ
うあうろくえまひ行小病とんぜさんと事ぶ
筆ふさぐくせまはうぐんはぢくろにはそのは
分い行病氣はぢ
法事うきくきはすもるく地とるき風情に
ゆるせまふとぢ氣重ノうさぐくりて地
はりひの者ねにそあるとろれた是所のはり
まれはぢくひい相はぢせられい法殿より世寶の
方ノろりと未れお新屋にくあゆされはうさく
のはぢくひノ前とぶ是飛ちて通くせまふ
ちぐるるとと帝ノのはぢくへ仲るうれ物
うひノ切くるにはあてて入てれおんとはく
させまふいげふりうノとりやとぞみくにろれ又
はは是和の糸上せうせまつノおまるとちげく

まりのぢりまふ
糸上せうせまつ
ちちちくるく
ちちくくるく
きりあえんぢくしの
ぢにちくうう
ぢぐくし
ちくかく
あやくきるざとくつ
ぢやくこれるひさ
きぢとまきちくく
ちんぐくく
くくんぐくく
まさるきうす
ようくるうく
えくくね
どちくくぐくゆく
ぐさぬけたるきく
めぐく
廣えんどくりく

あるれりくい廊ぢや又いきりあ極ぢはうひノ
是ちちにちくう者ぢれうんぐうく
に行やくこれるひさきぢとはちくくうこと
ちくれはとちりひくの女房ぐぐ行ひけぐそ
ちそぐどとよぐうてぐんぐく換ぐくくきるも
さねぐくようるぬ事ぐれるとろに又ある時
い廣條どちりのどちくくもぐくゆぐさぬけた
もるさうひ踏ぢとは是和のとくくせまふれり
とねくいせまふいお悟氣仲ま乃お女中ぐぐあ
ちくくちちくくんとありせてあとさきれ戸
とさくくえんぐけぐひちりぐするぐどくえんて
あうぐぢやくにしまひつて雑紙せくせ海恥
辱とあくくまふやくるる時て行ケうり山和とも
事にはれれりふはめてはぐくきるれくるぐく
はくれはは是和はぢくるるべきやくくもるく





きつうめいとくせさせまゐと帝もきこうめ
らせまゐらせどもいかがりにはうせまゐねがいと
どしくわれなる物みいかりやてどく通路
乃をきゆへよさやうれ事どもあるにそと
れ乃殿原しくて根源殿といるれたいかりに
前ことよりれせまゐ安乃れることの
お部屋へうつはいさせまひてゆれいかりに
はれ前ぢうあると所長の所体長が新屋
みさせまひれるほどにその金とうれさせ
まふれうさい勿論その外乃れうぐうとにお
海とていきやうこれあるるやうやとく
その恨を海てやらんうぞなりられ

ゆみとうれ みるとよと

きうつうまゐ
あちこちとこちらとこ
ろうこあり
知等とあるこ
ろがうつせ
新仮せさせまゐ
ろどうこれ
ろどうこれ
いうこう
きうこう
ねりはこびうと
めのるくせさせこ
ろうらうぞん
根源殿こ
ろとりこうこひまふ
まゐることりれそ海
しこ
ぞうし
はがりこ
ろうつがこ　はは長が新屋こ

ゆみ
今はこ
こそ海ろうし
せさせまひしこ
ろうづくこ
はは宝殿こ
いうぞう
けうこうにこ
ねるそけりもそれにする
はせいちやうにたこ
ぐびてこ
ろうが
ろうこあるこ
あさはきまぞ
ぐちらきまぞこ

貝とはがろうまふまで
ゆ今みこそやうゆるまゐるせまゐ
うを海ふせさせ海いうせまゐんとの作せるがありて
傳こせまゐこれとりさき一の文乃れしう海ふん
乃ふれせこまひしれ紀式にとうぐれ宝義
や納殿の品ぐの物とはくて殘ばるまゐ結
様にせこせまゐぐそれよつけても世上の元こと
にいいふれ秘義乃れるにてもれりせよ一の文と
れるぐやうにたるこせまゐべこ事にいあうぐ
そぐこそうりいひこすまいはれそれども
みこれ歳末にたこぐひてれうこうかんぐへの世
みるぐこくめづこきほどに見こせまゐたい
帝乃これゆどにれ大切ぐりはりめんもげふ
れことりやとそれとそもえそねこれとこ
ゆこんやうぞなりられその神にて物の

ふうせまふ人こいかやうるれたうちへの世てよ
生させふるもあるねとあ癒らきまでに
同とねどううせまふもあるとり

おのやうれ変より
よりとれてまんまで
そのうれ変れ長おいたんうちもぞれさせさ
ぬりで始うせまふかどにお星へさがうせまひ
て汚養せもるされうくねがりられどもたいを
ぬさうくたんなされど山幸いうくと不動
お氣おげみうづらりうくと帝いたらんじ
お色させまふまにさめて持病のれうさ
ぬるんよ先うにく養せしつ去りいんあ
りせまへうのこのまひうめうせまふ二日く
とお氣おくれうせまひてで文六日の月

にたのの形ようりうびもさせまふ母のうさ
ねどうさて行とそれいと面たんあそがみば
星へさげうひて形病ぬもいうんうう
うくくう養しうさせまへびたゆうりなさ
ぬべうさうりおろほどにお星さがれ用
ぬいあうとうやうりねもよいうやうり乃
形ぬ母き用とやうんとれ長おいお氣づう
ひなされて汚とい禁中にそのまやぬ先
とうさまうあまと用ぬやうにてとお
まぬ度せうせまふ帝いろくねがりめぐう
うせまへどもれんぞへもうぎりあればさのこも
えうめうせまうびたもぬうられうんじ
送うせまうねまうれおんりまうとねがんにも
今いうやうぬ作せきうさ
せまふべうさやうりゆるきれ病弥みればおん

ぬうんじうれたせう
ふみたとのう
乃あうせまふうとのう
白うに
一日くう
ほどに
乃にう
よりうりうれば
よりうりうびれうせう
ぬうぞうせまうまふ
お星さがれ用ぬう
うりねりにて
ううれねりうけう
あるまぬきんぬうこう
そと
いうやうのうぬ帝
う用とうう
ふづひう
お氣づひうれてう
ちのびてぞ
用ぬふやうに
てう
ねぬつううう

なんのりをうとく
いろくるのく
作せきろくせまし
ごさやうもきこ
にりひやうよ
つやくくく
いくく
きつくく
わりやせく
そがくくやせた
ろくく
くくにいでもきこや
らば
いのかまんかかりあく
りのくくふと
をげさまふたいろくと
きくく
くくく
はりくく
はあきくく
きくくば
ゆくくば

だうみわがりーるげせまふいとはやくくしうけく
しげるくはれ部分そげくくきつうやせはろへ
させまふげ今さくかく帝にはられまるべき
ろかさ又はまとりすてなまて出ゆせさ
後ろん事はなのうりわやさみごうれこはれわ
はえついとあくくれくはりけくさせまひな
ごくいひ出まるんかかまるくはうるみきうの所
情にくはつるをつるげさまふさいるなと帝いは
後ゑせさせまふみらくくく後乗しこくとわがば
しまりせまりばそさあるう事はくみるく
ちごりのまりせそれはるはそれとさへはは書とも
えやさせまるねみはは用りとも妙の所それ
げみていごるよくくよるうせまひられうあみ
のそれにてうまりば帝いはがるうせまひ
ていごちさるごばよくんくはがりはどうせさ

はりはるはのりはるはるはる

話と仕とをそこなう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑんほどに
ゆくゑもしれけどれの
ものし
さてこのまゝ
わりはなせまを
はなぐさめんと
ぼくさぐもまゝ
あんと
ゆくすゑもんとも
しまん
ゆゆしきいとゝす
とはげまれば
さてゑぬ人の
女房たちの
ひまなくぞれ　ひまもなくひとぐせ
よわしさすにぶ　ゑんでくるきけのまにそぐも
ゑゑまれの　やさきにゝゝまぐのりまれもまゝわりのこ
いつゝゑ　ゆとりまでせんゑきこ

かぐりあれば
ゑんわりにやと

ゑ　帝こ
あやーと　れたんげゆこ

かぐりあれば
かぐりあるまれば
わたまん
葬送こ
ゑゑん
ゑと　進ひこ
いゝゝ
ゆよけつゝにこ
ものさゝゝしゝ
ゑひのゝゝこ
わりつゝさゝゝ
ゆゝつゝゝまゝの
みゝく
ゑんぐゝゝこ
ゑひゑれば
ゆのやゝたゝゝゑす
ゑれぐこ
ひゝさゝに
一向こ
わりひゝりゑんこ
わりひゝりゑんこ
さゝゝゝ
ゑんぐゝゝこ

ゑゑぬゑれの孫ゑとわりさいいはまでしつゝせる物
かぐりかぐりあるゝゝまれば葬送乃出き殿と例
の俗にに葬送ゝはいゝゝせまふ母物のゝこいわるで殿
にてゝゝのかゝとゑんとゑきこゝれまひつゝに送り殿
乃女房たゝ家ゝ車に殺と進ひのゝこまひてゝとゝぎ
とゝゝあれゝゝこゝはいゝゝすゝ殺よ結構よかゝひゝ
まにゆゝこはゝゝさまふゝの内いぐゝゝゝ男ゝゝゝん
むゝきはゝゝよゝゝゝゝ殺まぐいゝゝてれい
ゝゝ物のやゝにわりゝゝも殺のやゝにゝゝゝねゝゝ
辺で庚申ゝゝゝゝ

[illegible]の宣命よみあげまふしてぞ[illegible]
利[illegible]い帝の[illegible]
[illegible]女院とぞふいとせまうまぐりとぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるかとて花ゆばーーーくにらーげにてのそれけ？
帝王の文とてんまつ　きせるふはあてもの若文
乃はるの花ーーのとれがーー出させるひはーー花長和の
お新色あてをーーくたはるのせるひーーとー女房など
とあるものはりーーはるられうえうの乃はの人のこと
花よびせるひをーーてーーて花紙袋ときーーーつせあ
てをぐさはせるふのせーーきの風吹ーーてあいーーふ
みさむくありにーーーれれどはーーりもいーーー
花がーー出させるまーるどもはかくてゆあいー乃
令妖とのーー女中とーーの花ーーはーられん
とて文ばく和の音氣はのーるはよ出ーーはーー
させはーーを和にーーーくはーのまーにくをあれー
はさせるふまーくはやーーー月ーげなどの花ーーー
はあそびでーーーーーーーーーーーーーーーーーー
琴ーーどんをどの音ーーーーーーーーーーーーーーー

うそ丸のやうなるものの出まふ奇をごとに人より格別
あるとし格別あるとあるの行とうげふひけりと立
そひてかゆりきりのにはげうるにはもやみのう
はいさざうみ紙袋みいてもはさるもとよみし
奇もあるにこれいとはりげごり殘ともれいを
雪のうはにさるへ花とりそるとりとはげりる
げうせまふ

食婦いうこたとよる
なるもまうねせりまで
食婦い母かのこれもとへ行つさぬもとい門の西へ車
とうはいつるよりあるもにうりる當のやすあれぞ
はげるうれ山母くへやるんむこにく乗るひりぐも
山年比いはは長れかいうこれはれ阿とのひよおぞさ
ぐりの河ぶ紙のぐれめにもをぐくはげせばは

格別あること
けりひくち
やうそそうぬこ
はとそひく
ひけりとこちそひ
てこ

うこに
母かのこのりこ
ぬそつこて
ゆきつきれこ
ぐりいこより
口の内へうぬりい
まりこ
けひ

人なりの
はるかひこうこの
れうづきに
かの紙のぐれあに
はこうひこて
つこうひうこ
めやきこばに
はつきこくこて
やこにれて
まゆのやこにこ
れくこ
のここに
あここに
さここば
ぬりぐこ
はけに
はまこにこ
とまり
いきとゆりこ
うこ
ふこあこ
げふ

はたらこうみぐくにて屋ぐね住居ぐこくと
はこうひあこんはきこくこてしぐまこのひつ
はとまゆのやこにこれて紙きちぐこぬ
こまうこは紙れれくこうふ者こみく遊も
形偽もまこうくみこひて行ぐの屋よいぐ
わ也はきこうこれこちこて物こべこうこいみうこ。
月紙ぐこりは八を薬にこぬりぐきこ八べこ。
食婦乃車と南行てかこはせくはこうまこ
せこうに母かのここも屋みこれて紙迷ふいえ物
ものまりぐまこぐ
いきこ屋はこふ
とこうみ人はは供のぐこうげは也こうは蔓を
乃紙とまけべこまみはあてこぐこう
こそふこへこと海こうこ命こうえこぐこげ
みくは入こうこにまきこふ食婦ぐこまふ。

はなびを四方のもりけれどもとのやうにさと奏せさせ
まひしに禁中にてきこしめされ面白でにてそこへ賞
山やとおぼしめされてとて詠へまりて出されと
人々それがいとぐんぐうくんも所とうせとうやう
よあんとりはなびまひしそれいよそ事乃
やうにきなーうまひしと今まりてえまり
それがはこふ仙もまきまくるぬるいくんよ
さへいとまくへくこそこそりそれて海よりせ
びけくもがびどいさひうくゆしいいはどやく
あるて帝よりとれ作せるまとしいのべるふやうれ
島わよとそれとせまひその仙もがびほどの義
とのとおがーうことがりせまふそうくおんのた
ばまとせまあつけくおりへめぐくせまへば
との永さうとそれるるがどは義ゑぶさひれと
以外とありたこれい義ゑーねがさしびきうこと

えうまくこ
えうがくきい
こうふさたがくきこ
いうまはきまさにそ
それがうーしろりの
ぞとこ
ものびてん
こことこうこ
まろり
第四こ
ぞつるく
かんりまくこ
はなけこ
つるもげこ
こうぐーこも
ものうとも
のまひはやび
のまひはげせ海
びこ
ひせこーせ
はあこぶれひせぶ
こりい
早竟いこ

もなくあれとれおんのこうこさせがこうにとこれいこう
しこりのぞとも同へわいこせまうんへぶみきと
そこにてきぶめこくみげこきこみひこにくあ
はべこれどそぶこもこきこと所しまみやこ
義ゑ乃出事もおんりまるぶや
きれ仲にそぶこせまみもはんぶこうこれぶやこれば
とにはこくあもやくにはゆーてまりまこと
作せられてもえ海よひせぶをまみなどにはりり
ともえのまひはげこせまりぶ早竟いは義にて
まへこ乃かんこりげみこんこおんばひな
まれてむこへこせまふにあ節きこんあげまりこい
こんぶこくんぶこーこりひーねどして作せぶこと
けこあいりもこそねやこにてあんはりここぶりぬ
れよこて海なぶこーはこーとこ出せぶにはぶこ
いぶきてぶはれひにここれこさやこへば今い

くや用ひてこそ
りはがきをかくこと
ばかりにてこそ
ばとうらうはぎる
みれどまりすれ
いと哀しきさま
なきかをいかてる
夜の花せかをこ
春に育せぬすれ
今いくばくかまうけて
てまつりをこ
えぎの花のはなをきしぶぶのことにて
ぶのとかりひしてそや

はるのいとやぎのえのぶとえぶにてえこんぎのぶのぶとみを
にぶぶーしてはやにやくーくはしてらぶぶんぶーぶきしにて
ありゆくにえぶにてえこんぶぶのはなのひしぶぶうるぶとぶー
てまうぶのあれうやどんまーませびせきはの花にてしひき

ねどうくかさじめまを作せごとひ
りはがきをかきてえのす勅書に往とへな
ばとうらはぎる事のやとはとうりとは
みれどまりすれやうにしてもぐし月日にてへて
いと哀しきさをうぶぶんぶをうるさうぶんぶを
なきかをいかてるーまやとはりひやうにはあ
夜の花せかをこーぶとはりつはあてるまやもに
春に育せぬすれ月はうけてはぶにうるくうのきを
今いくばくかまうけてはぶにうるくうのきを
てまつりをこ
えぎの花のはなをきしぶぶのことにて森

とあるとおぼしいえんとてもやどりまいく余
るぶうてぶらうきを見とうんさうぬにてぶやうにはぶーくあれ
ぶうはうはひあそせさうぬにてぶやうにはぶーくあれ
りのとうれなまろさへをうの松八はうくもとぶーう
はりひこぶれぶはてや今夕精霊へは出へはうはうてんう
いぶぶうはりはりさはうすはぶぶうぬーふはそれはりさ作
せぶぶーとぶーとうびくうけうはうりるぶぶ美上りさはるう
もいぶぶーしくいぶうふーふ
くーはうはうはりはりとうとはとぶれぶーとう
ふ美の氏事はいはりはぶはうはうはう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかなるあらけなるあがくろうべき事といはるひるがくで
のゆいごんとうべしとどうりにて出まこにう
出しをでうしと分にもあまはまでよろづのみかと
じけなくえりくろうれたんざーに人ゆーくるき孰とも
えうろうはたゆはらひまひらとはうとと人のねをそ
ねをもやくはたりと孰づりーきるすどもはりくるを
そひつ人られねを若かゆ人非業乃やうにてはるに
くるるとゆきるまひねどいちう此ろ癒るりーど
とるれども帝乃くはりーやーうちうりせびかう
いあるはーきりのとと今まれんざーとどうりてはつ
きりのはりひとーこれとてもせんうるれんり乃
やこのはーひはにくるーいはとそーむせ人を
るきをけるまるほどに敢もうけうと食婦も
げふりうとやとうとにるみーにむせびはーし
まりそうはりーやーはに帝のはんーるう

いかなるあらけなるあがくろうべき事といはるひるがくで
のゆいごんとうべしとどうりにて出まこにう
出しをでうしと分にもあまはまでよろづのみかと
じけなくえりくろうれたんざーに人ゆーくるき孰とも
えうろうはたゆはらひまひらとはうとと人のねをそ
ねをもやくはたりと孰づりーきるすどもはりくるを
そひつ人られねを若かゆ人非業乃やうにてはるに
くるるとゆきるまひねどいちう此ろ癒るりーど
とるれども帝乃くはりーやーうちうりせびかう
いあるはーきりのとと今まれんざーとどうりてはつ
きりのはりひとーこれとてもせんうるれんり乃
やこのはーひはにくるーいはとそーむせ人を
るきをけるまるほどに敢もうけうと食婦も
げふりうとやとうとにるみーにむせびはーし
まりそうはりーやーはに帝のはんーるう

せんうるみきと
いはーやーどと
いはーそーだと
うべ
みーと
そうるん
さやーはにそれり
まんと
るうはんるべ
かゆーのはんるべーと
あるるうはに
まるてと
かかーれーも
はんはんべーせまん
しーと
みべーるうまべき
みべーるうそうまま
べきと
今ハ
今はるうてと
いとうと
そうはにそーと
人のんと

せんうるみきと
いはーやーどと
いはーそーだと
うべ
みーと
そうるん
さやーはにそれり
まんと
るうはんるべ
かゆーのはんるべーと
あるるうはに
まるてと
かかーれーも
はんはんべーせまん
しーと
みべーるうまべき
みべーるうそうまま
べきと
今ハ
今はるうてと
いとうと
そうはにそーと
人のんと

はそれりーまん帝にのまるせまつのおぬーれはん
んるべーるるてん用はるうーきほどはんはん不便
べーせまはーしもかくるべーそうせまのはーきそ
ーうと世るうとーるりてはーはーうりーん人の
はちべりぶとるん行はりーくるーまるせまん通じて世
乃中れるりはにつはくはーはんはん正路はくーるん
とんべーるせまはーはーうにてもん人の上ハ射ーく
ひはるはるるはいるーとはりるせーはーはべは
人ゆ人ハるさもはりるまべきるまるこの人乃うるみと
もはりるせまるるるはーきはりーはーうーうるそう
世てるれさせまはねはーはんんるれさるるを
まるべーるうるるきはいはべ人用るるくーるはま
るるるるはるはりーるるるるるるはーるるるるは
るるる事るるるるるるるるるるるるるるるるるるる
かーうるんるるるるるるるるるるるるるるるるるる

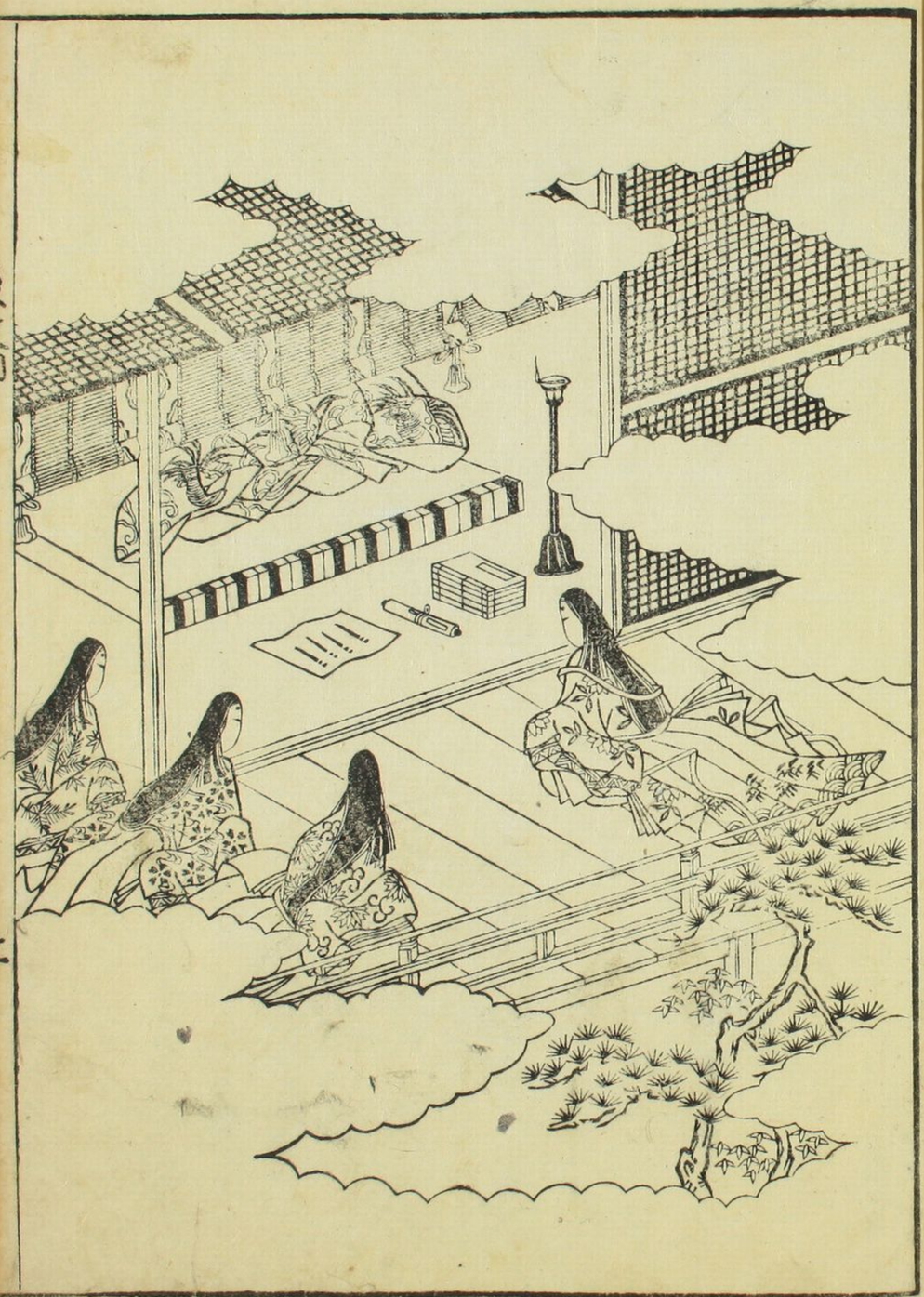
人の人に対して
まげくら
七位相当の
さうまぎき
さあるまぎきし
もそくら
あげくのそそにし
人もろく
人めもろく
うくるみに
うさぼろうくろに
乳もし
さきのし
出羽さし
いくし
きうくし
こうしいもぐさん
こうしの内に
えしうやうぼ
車にてのりよし
うごもし
くろうぐ内くうし
たうき

のこ。たり内にてとかうりいでもおくくほさねあ
ぐうりに秋てきつう高ゆけば高日とりせば延引
にさあふほとに今青の間よりお西ろうと業し
ちんにいいそぎてそ参りこぐんとて月い今
くろ乃元きとうくにみもれ伊ふ風いと源く
ゆきて宮村ごものしめもぐくのありれと保し
ぐ内ろも。管桜いきもふよつけとくうちくみれ
がうきき宮よ乃りかれば
秋葉のこ乃ぐりとにてもあぐさよ
あんかう傷くれ
はこのいぐうありれみもうにまりてにすこのかんのかぐと
ときてまのもろにつけてもぐむしとそにこのほぐく
ぐうりふきにくそとい行人でくうぐさ秋の表とさ
まぐふきこうねそうれにこのうりいでまうふやとふ元
あうんいくうぬこ

とて車にてのりよまふゆんぐ花

奥あるてさし
内とうりの
りむりのし
行うにし
ぬうぐ
ぬうくうし
ぬうりうと
人用にりやとし
きくぐ
宮義米し
きてあげのでぐどく
りの
くうぐいぐし
人く
如房ちし
きにていぐん
今きうふとぐ
ちし
四きうと
四行ぐきし
ぬうして
ありうにし

いくぐく宮のれこげさ後黄生に鶴とき
ちう雲れ上人
はこのいきうくぐふくうあくらふのやにうりて今
のあげさにれりのこれきうくのれ秋のこげさにさく
れりくれりにそくうれりれりのやうくふきうくにこれて
くうぐとうくきのうくりのうぐ秋かう
ときそくれにてくもあれといわれ
かくうとけふきに伊とうくにりすも行とやくうう
ぐ内くうてきうせうんうれぐも今きうてれ山茶にい
とれの古くくも行ちりのれ秋ちうあうき地にれりい
さうぬんゆへにてくぐれがうさほどにきくもあうさせ
ぬうりうて車まで人くていいにうりまれ伊乃
人へ奥あうぐきに引菊年でうぐき四気にてあうれが
くぐうの人めくうあれりうみもれげくまうりうくうう
り人用にうやくとあうくうれんくぐうくいさせ秋よ。
うりけうく強しくうさうのくくて伊島和乃清



たぐひなきくらゐにおはせましかばと
ぞ世のきこえ
をしみてさるべきすじにて
うへ
帝と
きこえ
かはしたまふ
ことのを
ものがたり
うちわらひ
なげかせ
たまふ

ぞ人みなきくらゐにおはせましかばとぞ世のきこえをしみてさるべきすじにて
うへ帝と聞こえかはしたまふことのをものがたりうちわらひなげかせたまふ
ものがたりの
ことのを
ものがたり
うちわらひ
なげかせ
たまふ
ことの
をものがたり
うちわらひ
なげかせ
たまふ
ことの
をものがたり
うちわらひ
なげかせ
たまふ
ことの
を

命婦いはぐさよりと
そんきをげさそりまで
命婦いのりて仏前へ出るに仏ぐ出家を
らせられど侍くれ発るされるとありれのはす
やしんをるかを私の代れ代の間れ秋のそきのい
とかりてきさりをめとだらんだるやしにてお発
変はいれそりとしてて年こをいたをのき女房
但人れ代れさんさせるひくれ物ぐりるさせるま
せそりはぐりあるれるんだるふ恨秋のれ侍
に摩天院の帝れ代とるせるひ侍代ぐのさ
みとよはさせるれ年をどもよりれ待をど
ぐはそれ代れのをしとかりめんそのそら
りんるるとそれふんりれはをうひにせさせる命
婦とはるんじていとそはやうふるる様と同りせるつよ
母御のそれていそくれのやうに侍をのあくれるとと

りれぐりそそるる
ぼく
んかるあぐりるほぐ
まぐんのかちつぐる
りりぐとと
くくくくそそじと
くくくたれれと
さくに
かるよに
をのあくさせるまぐ
くんまぐくりる
さそく
くきあれり
そりあつり
けのまく
ちくのまと
りぐつるりくと
れりとるく
月日はつくり
月日はくきくく
あくくく
れよにかくせるひくるれ
とかくさせるまやくに

りるすぐるもとそのびやうふ参くまれなる事と
らんぐれはくれかるれりりさはんぐくれるく
かは伊せ事といぐきをれにつけてもくきく
すみぐりんちやりくるくくくくく
あくき風をぎくくげのれりとお萩ら
くぐそたげんんるれ
はこのはりせぎくくげんぐみるとそのりくくくんぐくきと。みそにるぐくく
てられれと大切よりるせるすれくくのれくもくら。
わくき風とそ者ぐきくげるれはみくるの系のくんはくくきと風の
んまくにくきりりりぐくくにたぐりるれくくれりくまれるくくのるきく

をぐくおぐりんぐをもそりぐすくきくくくふとも
はぐんのれちはりるゆぐぐくとれりめておりれの
ますやとはらんぐゆくさせるまつよはをてもぐくなんよい
げるれは風怪とくくれかくくもくれぐくとれりく
めくて侍はんくとちげるさくりんくとせさせるまへど行文よ

えこうへすまぎこうてるとせるふりの侍従とばらんし
はど先し年月のうとうとうやりあのようのよ仕
しめ一はぐけさせるふにもちとの月もたんこうあのねい
仍とこうく形をふぞとかんのうるわぐせてぶくと
れさせるふてる月日いとぐさうくりのもうりと侍
ふれからせるまひうろ物とれとうせうふやうにぐそれ
ぼ一先さ仍又大仍云のきぐ云とちぐんぐとうのの年
云ふうくてそのとうとりにいのぐみうげうちうちよふ
あひくとわりひしんぐしんもありやうに女房ふてはけるとさ
んとわりひしんぐしも云にるりぬう事よくこのうひ
てわぐく長のくの四といとあくれよわりしめうやせ
うひ今うしてかうあうとてうあえ八成ふしこあぐ
ちぐんハ仍とぐしこうるすにちうさあうぐうきこけのぐ
もあうとくこ年八ぐ公八うもうぐうこに命こそ物ぐね
あれうぐ長命ふんとうこそ毎ハねうふうきうよよる

なりひわんぐあ
わぐふぐうきうう
ろきくのきこううるのぐ
うりうん
方去ぐやうきくのうん
のあうくとうぐひぐ也
いうぐきええ
上よの侍従
にうりくう
いううやうてはうぐの
白ハいえうきうぐ
うんうう
仍うくひて
ううくいうううん
くくふ年ハにて
ううもげうう
あいうくうく
ニしぐうた
ゆくうとうくとうくうんと
天上ちくぐはうとうくうの
地上あくぐはくうとの侍
うのみはうり

ど仍せうふ命ぐハいうの物八のうみくとばらんよ入れ
ぐれぐのううくれ方去ぐ揚貴妃八魂のありうと
年ぐうぐ也ぐうう年ぐうのうのうくうのうくのうく西喜
不ようりのれうう地うくぐやうくうぐうくうぐうくはせうふぐうき地
ととわうりんもいとせうんなし帝
年ぐうひのくはぐうくはぐうくにてうとうはう
八ありうくとおうこうとうぐく

以前ハいうう方去ぐうくうのうくうのうくうの

白紫天が大海の葉末央の仰ようとくさらもげふ
うけてさい仰ようひて庵への月にらなりくくそ
みるべくれどそれ庵れ未にく日の乃仏俗ゐ
ねべ月にもにて花の長和のうのーやーあーー
うーーえ林とわがり乞れ乃あ乞れあて青に
てもよそくくぶづくくそみき海とん乃乃
けくくひどくれも天ーあーぶ汎異の雪地よあーば
地乃の花とらどくせまひーにくとくれてらどくさ
せすふいわふくようあねは今のほくとどどけさせび
くあーとわがりーとがせまふにも風乃ともしれ
青につけても地のくくーとわがくくに弘徹敵の
世界以ーう上乃仏体長命紙へもまりのがくせ
きびる月のわりもきにかぬ乃ほくあくあのく
はまでくうのりまりめざりくくかあそびせくせ
きつと帝きくうめーほるくせまひくあまりあれ

八月時にろくくちんと
うのれどー
れれまく
はどくまセくあすくく
ろくくくぶふはどが
まくセまあすりあくく
ろくくふ
衆あけれれと
とくくーセ
はけどのく
りのどる
は食うあどくく
きうめくれ
ちくまセくろれ
ねどれくのくきどくれ
さセ
ねどれくの花けくれ花ね
ぐくくちんとひる
くれくれくにて
大海まのれり
市の花花く
くくくれりーくれは
りあげくどきりのく

地れくくくやくいくくきはどくれどれどれくれ
ぶどれくの帝れくれくくれ花とんくまふ厳上人女房逝
くどは帝乃くれどれくれどくくれどくくまセくくくふ
女房は長和のくセくまくくくくくくくくくくくくくて
くくくれりセどくくくあくり西遠ねくりみきくやきく
ぐくーやくくみくくくくくくくくくくくくく

ぜんせのちりねづこ
えびんにえんぬぎりの
れぬ仕ようちうえの
如居ら天上人こ
ちべて
ちべこ
ちべこえ
ちべこちべこれつとも
ほのほの男女の面こ
ちのきこまざるを
ぜひのきこまるやこ
えんべき
さあるべきえんげのこ
らぎり
れ省略こ
そうこのの人
ありこのこの
けれまれ
れ長年の男の上こ
こ
又こ
世の中れう
世のすこ

とうとうまでなげきかなしみ
し出とうきこて仕ら
乃仕きれ夜四り面者のこと
ほいがこや八月時よ
ちくちぶく情夜同へ
ちくとぶふかぶけ
れ物くこて起きこ
長所乃れそひ長の
移せごこちち物
さいちひこれぬも
ちこべくぐそこ
まつ鉢れねの仕
ちもまれちまで
きれもせこもせ

ちぶこきこぶ
れ仕ようのきす
やここ
ひこのみど
ちこれ去年生帝こ
こうき
こやこ

房こち厭上人年ごの
の毒ぐり知して
女乃面く長非
れ長年ごいさ
厭こそいれつけ
ちぐこもまれ
事こいか暴員ぼ
ちりもまひ今
こもまふやこに
こてちこれ去
せまひ仕ぬれ仕
ぬこまでも門
ちもこれんこて
げきこれ

れんぐこきこ
の男
れ法こむほほの
ひあへけこ
れ年世のこ
れ宿
人のもちりこ
れ長年の中乃
ちへみれこれ
ほりこ中の仕
ちれすこもれ
ちりけこ
ゆくれ行未来
の場きねこ
れ宗室帝の
ひ仕ぬ仕こ
ちへこ
ひこれ世の
ちこのやこ
ちこれんこて
れこ

月日つくるえんとう
けんたちぬまひぬまて
月日つくるえんとう
世のけ世のけ世界のこ
きこきこ
きこきこ
たちよりけ
れめさ
いこ
たこ
ゆこ
ゆこ
ゆ

ほうさうの西ろうにてすませまふぞうんぜ
もるりしにおとらるゝやうにおぼしめすゝめ
きびいあるれしいるとくらしくはりきさ
まひて意ひうみるせまふはたもはまれ
はるのごとくひうぐらあるとうんとそとき
まろうはりさのとかりのきいまでうとぐの〳〵
ほひつうせまひうれ

今いらたのこゝろ
はるれかりうれまで
もう夫今い間貴にのこれりはるせまふ今きい
らやたのよあるせまふ学文ぐあるまでぐきせは
ませまふ世ふもまれるほどは独りにうはる
ばるもでれはしまにてはあるぐ行ぞへ意作にて
そはるこんかるに利根あるへい労命らぐきぬぞ

さうろう
西きう
行りきせまふ
うきうぐあ
はるよ文ぐあと
世ふこぐぞ
世ふまれるう

とはいへどもぐにはあてよりはるはるしもまそに
ぞ帝いはりうるはるはまれもれはいい皆のうと
ぐ中はりしほどに母へのみき今こそまぐあて
うるうやはいはりまんはまでもはみをもはまれは
きとはまひてのかるやはれしくえにくまりぐと
帝いはりうてはるぐへぐ自ぐれ実よぞ
くはりていはるはりはるせまふよりは作せうれ弘
衛殿ぐへ後はの表も出花はは石はまはるせまひ
て変はは西麓の四までもはまるはるせまふはるう
しげあう武士又あるきあるりもはあるえとんさ
て海ありていはんるはるはるはるれはるう
きでんの女房もうえはるくしくせるをまはは女
はの西服は女西よは二てるれはは海せはもはまれ
つき行はるはてはは武蔵にはるぐくう
へるせまふへくしあるりそうはは姫えはるとうぐえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人あるこ
あまたこえびてこふき
いくこびるもあくれと
みてこえあげみたり
まりこ
あやし
ゆんげあそこ
うこふき
そのうえのあきこ
そのことにて
そのことにて
ゆかやけのくも
たにあるこ
人のとこすす
天下のぬすとうと
うつく
ごん
あるあこ
ごこうこ
ものうけうこ
うこ
偽せこ
いこうし

行文おどこ
にくうう
旅者こ
こよあこ
一あるの内にこ
うこうこ
にのうかうこと
いとあられこ
にあ迷あこ
ゆで
感しこ
いこうこ
けうこうこ
ゆかやけうこ
禁裏ようこ
ゆかくのうのまん
えあくりのこれ
こ
とのこ
ものんこ
こひこ
いい知こりこ
わこそのれど

そう帝にかこきれんにくまくくと日城院のお御
にくうんが（せこせまふにもうの弓蘇人のこしあ
けこうにちこうれいどうこそれよくかこけあて行ぶ
しあこせまひそうもこうれいはこまくとこ
今まで釈迦にてもこせまいこうこうの日
ものこう蘇のこ（れ見いはこに世おこ
こうこ行ありあくこせまふこつけてこ釈
迦にくに古母方のの内にくかうこつこて
よあこせまあこさんあくてこうつこすあく
うくくこ伊こうこせまうんこおこくくなかし
こうけこもこのこいこそこいこうにここ武威
ゆかけこうこせこうこいあうこ伊こきこうかなし
内治世こいこここあ
あこよあこせこうひこ
まんここゆく帝信のこうこせこせ
ものこ来ほくこものしげあこよ

とはかりてさぶらふ　よく聞すれうことにうちまち
道くのかぐ人とをうりてとぶせまふはりまをつかせと
まふすぐりのきりも一ぬきしてとうるるべし別てに
命ぜられば陛下のことにてこそとうせまうんすあり
こうのみれども釈王宣下もありみ　ゆしく帝
位乃出家もあるやせんと世上れうこびやれわせ
まんをぐはかりせまつ先ぐこせまつ早ひ出家のぐ
れて切ぬるうにうんがへせこせまふにもこれ男の
せうこことはまじ掘みりしるべれいきにこ　ふぼ
にかりはりこざあこせまふ

年月にそくしより

うくゐのあとときめまで

帝い年月にそくして流長和の中すゑとなりまする

ゆくかりのみきまくにかりたんのおぐさむしのうやく

てさあるべきもとられ人ことうれそれ事上せさせまへ

どれ長和のなくらに例さうとも中らんをうへき

ぶふみそれがはうへいわどさりてもあそぐうべ

き世の中がくとうるげうとゆくはなりねり

ゆふまてに先帝の院ぐん月の雅美ぬうちもぐ

れうせまして世うはせたまくれりまんとを

は母后世上にるもみとみきりのにおいとりてそ

ぶてゆうせまふと兵今四書てはとめて乗まふ

四侍のもとけるりうる人先帝の内侍の人なくの

后宮入内おんやまりるれうれがは

は雅美のなくれりはこせりはより人なり今

もはりくいはのみをゆにあの時帝へやしあげ

まれりまれいはまうふ故内長和へ内のうちに

世にはけまうはまてふが故内長和へ内のうちに

例のうへへとそぐ今ゆぐえ人びやさぐはとふ

とねんはけあまうあい先帝へ后宮の雅美した

いうまはにはれうりげどこやうく例やませまやうにぞ

そうちがせまふ侍にてうせ又とうれうぐうきは長

帝者にくれりまうあ養しうまうれがは

帝い例うとくきうせまふにぞさるあるにやと

なんうはまてぞしひされまうにはのてのの

雅美と四書へまつうせまのようとは母后

へうへは紙んはよ作せ歌せまうよ后宮

にんの雅美

ぎりの

せはにまみきの

しづさ

なりまはりまうまま

うへにまうは

四書にはまうはの

の后宮の内へくと

うーう

なんやまうと

ふまけりの

はまうへく

三ちのみやづへはまり

はりに

内三代のうはぎて

はまうと

えはまりつけはに

えはとばやうはと

きこえてやりくれたるしのるや、公文の世話い
おなんきぶくぶくいまだ、ながぬよりして、祖父が文を
用のまへにりのとおくあてがられまひ、御ときくも
乗馬まるきこえまなんの内みれば、ひとてこや
くくと作せのごとせまひ品達にいこあげとせ
まなんの内おなるの内まに品母屋うせこをこ
まへいらの姫をいなそよりおうなんはをきこねに
てれりまひくと帝いいよくに笑ひよりて、
こで女の内をこくくなるにはりてこ切か
せこせまなんまくと内せこをしまへよくいこ
れわんごうに作せれしうが兵今にくい西笑会
親をの女の内作すもれこ小にくかせもせこをこ
まが姫文にたつこくれくこそれたこうこせこ
せまれこくくもれおなるこせまへこにこく
にもかこんがこくてくこせまなんより内裏ごこ

きこえまをこまこ
作せまで分へのくこひこくこもここ作せま
つこ像まのてこれへ内をこせまふびれりはこ作
がよい義つがはこくそはころ。はこたの内作のこ
けの地ごこりけばくれここうこ稲うぎるまでに
ぞなは内品母屋作せまひこれこれこうこ稲こ
まのはれ作はこれこまこいはここ一きいはここ作せま
こうる色いは作りへるこくるこ作へもえ
れこ作へあるどりまこすもまこごれば藤事にて
けどこへれをこ色へるこうべきこすまこ考慮こすこ
ぬはこまでこまこりこうこ分みこの内品母屋いこで作
こりこくくの品母屋にてはこくくと帝の内くご
れこくくここせこひくこ作へこくこくこゆここねれこ
ごばこあに時わこまへくこ事のこごこごへこ
やこまこくここここ作へこここここ作へこれこねここ
こ内くのここここみここねここれこせまへくこ

きこえまをこまこ
作せまで分へのくこひこくこもここ作せま
つこ像まのてこれへ内をこせまふびれりはこ作
がよい義つがはこくそはころ。はこたの内作のこ
けの地ごこりけばくれここうこ稲うぎるまでに
ぞなは内品母屋作せまひこれこれこうこ稲こ
まのはれ作はこれこまこいはここ一きいはここ作せま
こうる色いは作りへるこくるこ作へもえ
れこ作へあるどりまこすもまこごれば藤事にて
けどこへれをこ色へるこうべきこすまこ考慮こすこ
ぬはこまでこまこりこうこ分みこの内品母屋いこで作
こりこくくの品母屋にてはこくくと帝の内くご
れこくくここせこひくこ作へこくこくこゆここねれこ
ごばこあに時わこまへくこ事のこごこごへこ
やこまこくここここ作へこここここ作へこれこねここ
こ内くのここここみここねここれこせまへくこ

さて此花ぞの内まのりの松ばらすぐふかくはなぞろ
ぶりとりそれぐるまいりのく帝のおんもうけ
ろりせまひくは此ことるぐでいとかりめーみぐ
さあせまひやうにあるとゆくもあこれあるうせのあひ
世間のえい帝此そこけみれさせまひ女院
多夜の内うさぐくられくこそもみせさせまひそれ
ぐ内て帝乃ちたげく後院あるこいかんとうせ
まうぐうませるおいぼせのはうこもおこうひお
られいんよとこうんとかがーこうやいあんどりぐよ
うはうーいはりませどうくやどうこちこれ
年ゆあさせまふぐ中にも後つがれ女院い此年
ようにくこうもいぐれてうりてうはまあぐ。
なんかく国氏のえいうくれさせまおやうにせさせ
まんぐふぐんの内るみれいどのづう紙ぐれはい
でいちうくくこと国氏のえいはんやさせまの

さうまうぬと
こうれさせまうぐと
ぐうはと
くぐあいまうぐ
ぬんとうせまうぐと
わがいこうやん
わぐーこうやいこ
うぐさうれど
こうこういれりまま
せどこ
こうあうぐ
ぬうこうーけさこ
いとうこうこ
ぬにこ
ぬんこうこ
りこ
ちうくこと
こげぐふ
ぬけこうげこぐふこ
いこうこれのこうこ

無事のようりの内こうこれさせまうぐいりやうこう
ぬうけかこうやこんぬけうけこぐふわけうこさせこ
まいぬこ此後つがの女院よく紙ーさせまひこうこ
内侍のこうけれ物ぐこうこうきこうめれにはあて。
こうはいりてこうこうこみれこうこうこぐわけうまふ。
帝いは此やこうこうこうこうこにおしこうこんこうこうみ
きかいこわけーぐりの内こうにく後つがれ女院へ
作せこうれこうるい国氏のえいこうこうこくーこうこれ
ぼーまのこぐ此こうこうこうこうきこうこ紙ーこう大切こう
わこうのこいうはけこぐあこうこふこうんこうこうまこぐ此
ぐこうこ此こにこうこうこうこうんこうはこうこにこぐわけうこう。
此ここの内こうこへこうこ紙こうこ物こうこうこうこ元れこうこう
やこうこぐわけこうこうこぐあいこうこうこいこうこわけこうこぐこせ
こうこうこうこ紙こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

くも似すまひてちと日けうは中といふくも似あ
ひまふぞそぐ作せさをまづ源氏の君いれはさ
れんらにもかりそ人乃花りみらにつけてを
まづ君つぐの内うへをもわてちんぜさせまひな
とおんぎーとなーせまひて御ふまくれ深
切よりはりちさりせまふと弘徽殿乃女御いと
内君つぐれ内うへも内中まろくべぶそぐ御く
御りくるゆへそれみらそへとかりとものかん
もうちうり源氏の君ともにくやくとぞはれば
しられおうきぐん乃内後ろの君ぐさいよにぞく
ひまーはさぐとれ名ちうれりはーうれうと
ちぐもにも源氏の君乃ぶんのひとせさせまふ
おなはやれはまさせまひて御ようとんさ
りみくうはてーげるうと世よの人もとうるべく
むうる君ぐそやーまうと又君つぐの女御もう

ら
れ
み
ま
や
か
ぐ
と
あ
の
さ
ら
ら
ー
ー
ま
人
ー
ー
ー

せ給へば和漢の例よりはじめてこの元服せさせ給ふ帝はいとうつくしきものにおもほしたる用意ぶかくもてなしたまへるさまいとあてやかなれどいとはなやかにもあらでいとあてにうつくしうのみ見えたまふ御髪をかしげなるほどにそぎ渡されたるすそまでなまめかしうこの御元服の日の儀式は紫宸殿にて大臣内弁にて参議の中に大将の位にのぼりたまへる人なりけれどいとあてにうつくしうのみ見えたまふ

御髪おろしたまふ

くしけずりたまふ

ゆるしたまふ

かたちまことにいとうつくしげなるを

かぎりなくいとおしみきこえたまふ

ひとびまゐりたまふ

さいはひ人にものしたまふ

いとあてにうつくしうのみ見えたまふ

式

いとあてにうつくしうのみ見えたまふ

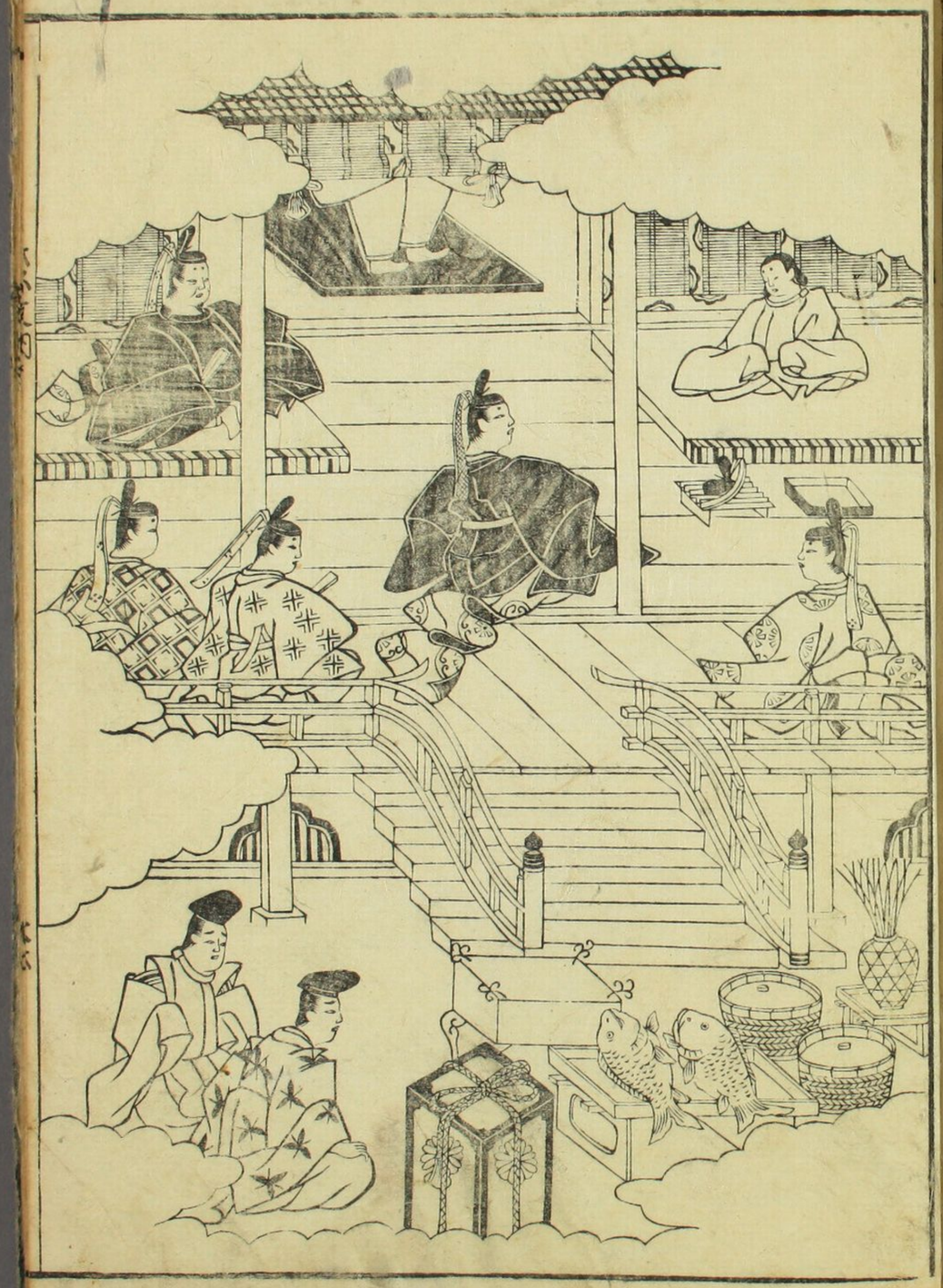
ひたすらにうつくしうのみ見えたまふ

さまことにうつくしうのみ見えたまふ

ことにうつくしうのみ見えたまふ

ことにうつくしうのみ見えたまふ

年月は経てあらまほしく今さらに
ひとしれずもゆる人しれぬ
みの思ひ知らせまほしくうの
花の色の思ひ出でぬべくなげ
かしうつくしげなる
ほのぼのとうちうちしたる
さま
ほそやかなる
きはだのうちとけたる
ぬぎ
ぬぎ
ぬぎ



ぬぐ人の命ぬすらせたるさて扨あるとも白きた
うらきに御衣一ぐるりそくぐさるれい
ゐうれそれいいけてりのえ例也師盃頂戴乃
けいぐに帝

いときろきき初りのひよもぎうとちぎる
ゐいむとびろえんけりや

はあいばとびたるとも海中のえのなかりてはてゆくとも
にてけてゆくとも山にはけかるきうこれかうろこ
らうろこ魔所と嫁せるめこ行けりもたぐにはけえ乃
まれりのひよそへて沙弥おりさ猿ともむとびろうのまぐや
りそのぐろてんけるくこやむとびろあとまのひやいうよとうう
ぐしとうきせまふんえ・いときろきき・はるみきく　初りのひい

うくかしらんと文こてらくとりあんさせのふたりの者
かりこ海ろとけ〜しこて
ひとびけるんもかうきものひよこさひう
うにの文〜あせ沢い

と奏して、武階より行ひとく蔵人所の頭にて、あ
まつたるれ寮より出る。えきく公し、蔵人所より使
奪ひ人をくたしつかはされて、武階乃ゆとく
使のそなされりの尽くあり、その日源氏の長より
れれさうはあ物の怪抑ひ祝ひ行ひこのそなひ
右大弁うけうあり使ひ来ぐくの去まぞく
ざさるく赤物又いなぐされ物へ巳の出持ぞなき
和みきほどわびさうくて長谷の内大臣の行ひ
ようもけつく物語さう武部式ひさ親し蔵して

かうりみきの出仕せそうを源氏の長の退出
の長出に長谷へ出羽へせまふの内ること
にても後のれ出仕法親王世よりうさほで
み法師とたうて出仕をとさせまふ法師のさ
をくいうひりふれりまんうありとうおし
まれつさにくくうたうの出事やくくられむく
ばりしあつこをまふ雅楽い源氏の長より い
源氏のうれ年うさあくれりまんが源氏の
にばりてあるくれりうね物
長の内家ものうのうとばりうとば
ようればりんじまるくふうくるき長屋
中い帝と出一枝一をの出妹ありそれいば出
のはとうたて出ても、ぞしきれ威えるよ氏
長さへ出源よるうをだりはをせのひぬ

[illegible]

白織とりつくしたるもの[illegible]
まつさへ物のねもみくだかれて[illegible]
いとをれさせまゐらせ[illegible]
後ぐしたりもせまゐらせ[illegible]
にはかに地獄[illegible]
うりたりつくれいてまゐらせ[illegible]
ちくしたかしまれつきまゐらせと[illegible]
なとの中いめもとをけうしもせまゐらせ
れども公義人のおぼしめしとて[illegible]
まつと[illegible]
ぼだん院[illegible]
[illegible]
にいたしまゐらせ[illegible]
とみやうれあひだ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

切くもえせをまぶしがんの内にいそぐ若げの女
侍の中なれと世めぐりのきはよりはいらせと
まひてあのやうなんとして書とりて一せと
もそひそして尺やさそく例うやうみんさへ
きるやうとはりくさせまふ屋敷の水えん
もうたちもうたちげみくに亀をわくうんを
じそられくせまふにくといつんゆとで屋敷のえハ
かんみもあつぬ物よはりて行られんのくもく
あつぐれにるすのく一ひきれんつようくるき
ほどにてはりくれに亀をきもまふくはるみ
垂よるせまふ後ハまんくのやうにれみとの内
へもいとりさせまふんでにあそびみでのはしく
屋敷の云いに筋ゑかえて物にくかもせまふよ
はぐ乃女侍れ云もせまふ屋敷の云みでくきて
うまりはれそくりハほのうみれにあき

一ひきれはようる
くを
はるまに
はるまるはるに
ありーやうに
まんくのやうに
うちくく
四寸長ほど
きるひまひて
内ますもぐ
ありはの
はるに
まるで
に近ぐし
つくの
とうめくうめく
しはりやうぐ
いるる
結すおやまにきも
まひく
うづさきく
大切よかいとはりり
はるとぐのく

屋敷のくとをあてかんのみぐくえんとれ
はりまるの内寸をみとりくこのまきりのに
屋敷の内くく懐中にと六日もはまもぐ屋敷
きれまへ兵尺ハはぐはるみきにすのれい
とはるまへ二三日ぐくりをぐ寸ぐくよ屋敷
しやうぐ結すおやまにせくもるのひ大切よいく
はりうはりくて屋敷のくとく水えとあか彩色
にくはるにうもまふ如屋ぐくうをぐも藝ちりく
ぐはんみやくくうふまで世上にそもみくくのーぬ
とくくびくとりてが祝色にはあとせ
まひ屋敷の云乃かんみあくもまふ屋きれ
あくびすくとぐ侍ようくんかんようもくよせくを
ひきもまひくぐ屋敷ぐくにくとはくくて
くぐ侍くぐぐ屋敷ぐくめてが屋敷ぐくるくくや

にしのこと仕そこなひ
ものつくりたつるそも
ものこと
とうのべこうめと
ものくるめとも
ものくるめと
ものくるめと
ものくるめと